# 2017年7月12日（水曜日）の読売新聞に
# 九州北部豪雨被害の支援について紹介されました！

27 □ 地域 栃木1 13版
2017年(平成29年)7月12日（水曜日） 讀賣新聞

## 九州豪雨 県内から支援

### 15年義援金に「感謝」
### 日光市などが募金箱

九州北部の豪雨の被災者を支援しようと、県内市町で募金活動が始まった。

2015年9月の関東・東北豪雨で被害が大きかった日光市では、10日から市役所と各行政センターに募金箱を設置し、市民らに協力を呼びかけている。

同市防災対策室によると、関東・東北豪雨では全国から寄せられた義援金のうち、約5700万円が配分されたという。同市の担当者は「感謝の気持ちを込めて、少しでも九州の皆さんの力になりたい」と話している。

鹿沼市と大田原市、壬生町社会福祉協議会も既に募金箱を設置しており、いずれも8月31日まで募金を受け付け、日本赤十字社を通じて被災地に送る。栃木市は今月10日に募金を行うことを決め、募金箱設置場所や募金時期を検討している。

那須塩原市も11日、義援金の受け付けを始め、8月18日まで受け付ける。

一方、同市内の製パン会社「パン・アキモト」（秋元義彦社長）は今月7～8日、従業員らが福岡県朝倉市や大分県日田市の避難所などを回ってパンの缶詰約5000食分を被災者に手渡した。自身も日田市で缶詰を届けたという秋元社長は「暑くて衛生状態に不安もある被災地では、パンの缶詰は大変喜ばれた」と話していた。

市民課窓口に設置された募金箱（11日午後、日光市今市本町の日光市役所で）